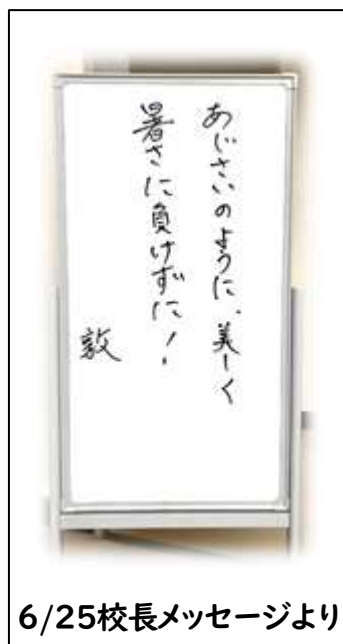




輝かしい伝統と実績 ～新体操部～

当校開校以来、輝かしい実績を残し、数多くの部員を輩出してきた新体操部が6月19日に最後の練習を終えました。41年間の活動に終止符が打たれました。伝統ある新体操部も生徒数の減少（現在の生徒数はピーク時の約半数近い221名）による部員不足、それに伴う教職員の減少で、存続していくことが難しくなりました。外部コーチからも支えていただきながら活動を続けてきましたが、今年度の1年生から募集を停止しました。とてもつらく悲しい決断でした。

先日、校舎内を巡視していると、体育館のフロアの異変に気付きました。体育館のグランド側に鉛筆の太さほどのくぼみがたくさんあるのです。最近できたようなものでもなく、これは何なのか不思議に思い、しばらく考え込んでいました。対称的に体育館入口側にはそのような痕跡がほとんどないのです。そのときに、ふとあることに気付きました。部活動練習の際、入口側はバレーボール部が使い、グランド側は新体操部が使っているのです。これは23年前まで7年間私が当校に勤務していたときと変わりません。「これは新体操部のたくさんの部員が41年間、熱心に練習してきた証のくぼみだ」と気付いたのです。手具を投げ上げ、うまくキャッチできずに床に落ちたときについた傷なのです（当時はリボンを高く上げるために持つ柄の部分に鉛をビニールテープでくりつけていたため重かったそうです）。部員がどんな思いで練習し、うまくいったときの喜び、うまくいかなかったときの悔しさを見てきた傷なのです。私は校長として、たくさんの新体操部員がどのような練習を行うことで技術を高め、寸分の狂いのない演技をするために努力してきたことや、チームとしてのまとまりを築いていった過程を知りたくなったのです。また、それが校長としての私の務めと考え、記録に残すことにしました。



6/25校長メッセージより



昭和60年度頸城中卒業アルバムより

新体操部は開校と同時に発足し、団体で40年間（今年度は中学校体育連盟の大会が中止となった）県大会に続けて出場しました。その間、北信越大会には13回出場しています。北信越大会で1位チームしか参加できない全国大会には3回出場しています。最高位は昭和59年度の6位。翌昭和60年度が9位と素晴らしい成績を残しています。当時、新体操部に在籍しており、現在直江津東中学校に勤務している笠原里美先生（昭和61年度卒）に活動の様子を聞きました。（記憶が曖昧な部分もあるそうです）

練習はほぼ毎日あり、休みはお盆と正月に数日あったただけだそうです。また、当時は朝練習が毎朝30分程度あったそうです。活動時間も他の部と変わらず、土曜日は午後4時頃まで（土曜日の午前中は授業があった）、日曜日は早朝から3時間程度の練習があったそうです。休日でも長時間練習したわけではなく、短時間集中して練習したそうです。

練習中に心掛けていたことは、良い演技をするためにコミュニケーションをしっかりとること。上級生を敬いながらも遠慮をしないこと。手具（ボールやりボンなど）を取りやすいところに投げることで、相手が失敗しても取ってあげることが徹底されていたそうです。部員は一生懸命練習し、天狗になることなく（謙虚で）、先輩は後輩に優しくしたそうです。後輩は先輩が練習中に落としてしまった手具を拾い、渡したいと思っていたそうです。それは先輩から「ありがとう」と言われることがうれしかったからだそうです。常に「先輩に教えてもらいたい」「先輩と話がしたい」「先輩のようになりたい」「先輩のように勝たなければならない」と思っていたそうです。先輩が後輩をかわいがり、後輩が先輩の姿を模範とする良好な関係が出来上がっていたことがわかります。当時は団体メンバーが6人で（現在は5人）、3年生になってもメンバーに入れなかった部員がいたそうです。競技の特性上、メンバーを固定し、練習していかなければなかなか競技力は向上しなかったそうです。メンバーに入れなかった部員は気持ちが切れることなく、個人戦に向けて練習をしたり、団体チームのサポートに入ったりしてくれたそうです。

顧問から団体メンバーには「病気をしない。けがをしない。自分の体じゃない。みんなの体」と、事あるごとに言われたそうです。また、「音楽や道具を準備してくれる人がいるから演技ができる」と周囲への感謝の気持ちを忘れないよう指導を受けたそうです。



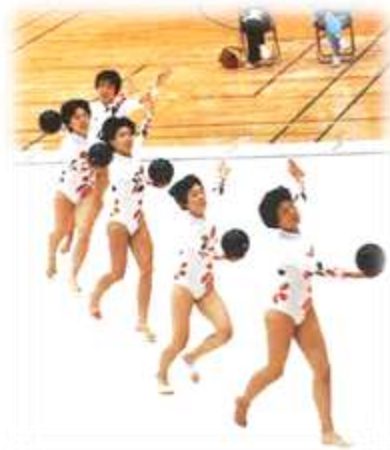
新体操部の守り神「チーさん」

新体操部が試合会場に持って行くチーさん（当時はチンクロ）というマスコットについても聞いてきました。当時の顧問とその娘さんが作ってくれたそうです。新体操部の守り神として大切に扱われてきました。演技前は「チンクロを抱いて、心を落ち着けた」そうです。現在の部員も大事にしている、「これは捨てられません」と3年生4名が私のところに持ってきてくれました。校長室で大事に保管することを部員と約束しましたので、ご覧になりたい方は見に来てください。

今年度の新体操部員は3年生4名での活動でした。昨年の11月に今年度の1年生の募集をしないことを校長室で4名に伝えました。5名いないと団体戦が組めないのも、地区大会には個人戦のみの出場予定でしたが、コロナウィルス感染予防のため中止になりました。それでも彼女らは大会がないと分かっているにもかかわらず最後まで熱心に練習に励んでいました。先輩の残した伝統が4名にも脈々と受け継がれていることを感じ、心が熱くなったと同時に頸城中学校の伝統が1つなくなってしまったことをさみしく感じました。

学校行事予定表を改訂しました

新型コロナウイルス感染症の影響により、今年度の学校行事予定が大幅に変更となっています。夏休みも当初より11日間短縮し、8月1日（土）～8月23日（日）となりました。つきましては、今年度の学校行事予定表（改訂版）を学校ホームページに掲載いたしましたのでご確認ください。なお、今後の状況により、予定はさらに変更となる場合があります。ご了承ください。



昭和62年度頸城中卒業アルバムより

夏季閉庁日について（お知らせ）

8月11日（火）～14日（金）

頸城中では、上記の期間は学校職員が不在となります。ご了承ください。

第1回生徒総会 ～放送による開催で～

当初5月に予定され、延期となっていた第1回生徒総会が6月17日（水）に開催されました。新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、今年度は生徒会リーダーのみが武道場に集まり、武道場から全校放送で議案書を読み上げるスタイルを採用しました。

全校生徒は自教室でリーダーの説明を聞いた後、学級単位で承認を行いました。放送機器の調整が難しかったり、全学級の承認数の計算に時間が掛かったりしましたが、総務委員を中心に臨機応変に対応していました。

最終的には全議案が全会一致で承認され、今年度の活動の方針が決まりました。これからの各専門委員会、部活動が本格的に活動を展開します。今後の活躍に期待しています。



体育祭に向けて動き出しました



今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響から、様々な学習活動が制限を受けています。生徒が楽しみにしていた学校行事も中止や縮小を余儀なくされている状況です。

そのような状況下ですが、頸城中では今年度の体育祭を文部科学省の「新型コロナウイルスに関連した感染症対策に関する対応について」に準じ、可能な限りの対応策を講じることで、予定していた9月5日（土）に終日実施する方向で準備を進めています。

6月18日（木）には体育祭の軍色抽選会を行い、各学級が3軍のいずれに所属するかを決めました。（今年は1年生が2学級であるため、1年生は学年を3グループに分けて軍に所属します）

ところで、この軍色抽選会は、毎年生徒会総務委員がユニークな抽選方法を考えて実施しています。今年は風船の中に「くじ」を仕込み、風船を割ってくじを引く方法で行われました。3年生は「ダーツ」で風船を割るのですが、これが難しいようでなかなか風船が割れません。矢が外れる度に、「あ〜…」と残念な声が体育館に響きます。最後の風船が割れた時には、体育館中に大きな拍手と笑顔があふれました。

全校の軍色が決まったところで、各軍3年生の応援団長・副団長が決意表明を行いました。3年生にとっては最後の体育祭です。少しでも思い出に残る学校行事となるよう、コロナ禍での制限はありますが、全校でアイデアと工夫を凝らして困難を乗り越えていきたいと思っています。



第一回定期テスト終了

7月6日（月）に第一回目の定期テストが行われました。シーンと静まり返った教室、廊下に整然と並ぶ青カバン、凛とした雰囲気の中、生徒は集中してテストに取り組んでいました。下に各学年生徒の感想を紹介します。

テストでできないところがありました。くやしかったです。その理由は学習時間が少なかったことです。テスト以外でもワークをやっておくこと、ちゃんと何回も何回も1つずつ覚えていくことが足りなかったなので、次は頑張りたいです。（1年生）

頑張ったことは自分ができない問題を繰り返してきたことです。数学が苦手なので友達にやり方を教えてもらえたこともよかったです。今回のテスト勉強はたくさんやったけれど、忘れっぽくてすぐに忘れてしまうので、もっとたくさんワークに取り組みたいと思います。（2年生）

ワークや提出物が今までよりも早く終わることができた。今まで自分から勉強することがあまりなかったが、進んで自分から勉強できた。それに、苦手なところに力を入れていたので、今までの中では一番いいテスト期間だった。（3年生）

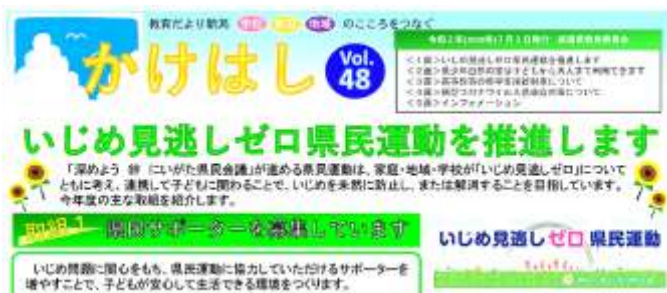
土日で合計12時間勉強したけれど社会がダメだった。やっぱり暗記系の教科は時間をかけて勉強しないといけないと思った。（3年生）



教育広報誌『かけはし』が電子配信になります

教育広報誌『かけはし』は、県教育委員会と家庭・地域をつなぐ広報誌として、県教育委員会の取組について広く理解していただくことを目的に年2回（7月、12月）発行されています。今年度より、県教育委員会ホームページから電子配信されることとなりましたのでお知らせいたします。

7月1日に発行された48号では、「いじめ見逃しゼロ県民運動の推進」「高等教育の修学支援新制度」「新型コロナウイルス感染症対策」等について掲載されています。県教育委員会ホームページから簡単にPDFデータを閲覧できます。是非定期的な閲覧をお願いいたします。



県教育委員会ホームページ「かけはし」掲載ページ

<https://www.pref.niigata.lg.jp/site/kyoiku/1191169877149.html>

QRコードでスマホから→

